読書メモ 2017 年 1 月号

―川崎享（かわさきあつし）著『英国の幻影』（創英社）ほか―

柳沢克央（やなぎさわかつひろ）（上田仮説サークル）

2017 年 1 月 28 日（土），1 月例会用レポート

◇はじめに

昨年 12 月までの「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

◎塩野米松（聞き書き）『ネジと人工衛星―世界一の工場町を歩く―』（文春新書 877・2012 年）（私物）

塩野氏は法隆寺寺工（宮大工）棟梁の故西岡常一氏の本や西岡氏の弟子である小川三夫氏の本を創った「聞き書き」の第一人者。東大阪市高井田の町工場の経営者たちにインタビューして作られた本である。我が坂城町と雰囲気が似ていると思った。本書は全 13 セクションに分かれる。それぞれの工場主の言葉にこだわりやポリシーのようなものを感じる。特に面白かったところを次に引用する。

＊

…ブラジルやベトナムだとかの新幹線導入競争に乗り出す件ですか？

車両の製作や売り込みは独立してるんです。車両のトップクラスは川崎重工で，ニューヨークの地下鉄のトップシェアですから。というような事で車両は独自に販売はできるんですが，地上設備はシステム全体が売れないと供給できないんです。

ヨーロッパの仕様の設備で日本の車両を走らすことは可能なんですよ。ですが，ヨーロッパ仕様に日本の金具を入れることは，無理なんです。システムが全く違いますから。

ヨーロッパは基本的に線路の保有と運行を分けた上下分離で運営してるんです。また，メーカーは設計，施工，製造すべてが一つのコンツェルンみたいになってるんですよね。ですから，１社で済む訳ですよ。

ところが日本の製造業は，分業が完全に末端まで行き渡ってますから，国が動かないと動けないんです。

昔は，国鉄が中心になって業界団体をとりまとめて，商社が窓口になって，中国であるとか韓国，アルゼンチンの各国へ材料を供給してたんです。

私どもは商社や工事メーカー，工事業者さんへの販売です。ですから国内販売が主ですね。技術支援の関係で現地へは行きますけども，基本的には輸出という行為は殆どしてないんですね。台湾新幹線を三菱重工さんが落札されると，三菱重工さんに私どもが納めるということなんです。

私どもの考え方は，基本的に輸入国で自国生産ができる体制作りを大前提に考えてます。現地で物が作れない限りは，鉄道の維持は難しいんです。

私は積極的に支援するつもりでいます。それによって日本の製品が売れないから困るというのではなくて，そこを通じて売れればいいじゃないかと。

じっさい，中国のメーカーに１社技術指導してます。

中国には品質っていう概念ないです。それを教えるにはどっちが損か得かという事さえ解ってもらえばいいんです。私たちの指導してるメーカーの社長ってのは，物作りから来てる方ですから，ロスがないことはものすごく得だって事をすぐ理解しました。

昔は日本も我々は作るだけで，品質管理は国鉄がやっていたんです。

当初は我々も品質維持が出来なかったので国鉄から監査しに来る訳です。それがメーカーが品質保証付きの商品を納めて，何か不具合があったら責任を取るという状況が国鉄の中後期に出来上がって来た。これは中国も同じになると思いますね。徐々に品質保証をメーカーに委ねる状況に変わってきてます。

中国への技術供与で一番重要なのは素材の管理と調達の件です。

要求した素材を確実に手に入れる手段，手法を講じなさいと。

私どもの仕事の中でも重要なのは素材管理なんです。鋼材でも，何処にでもあるも

のではなく厳格に仕様を決めたものしか使わない物があるがあるってのはそういうことです。そうなると素材や資源の供給元ってのは限られてます。

指導して３年目位になりますけども，先方を定期的に訪問したり，現地の監督者を一カ月ぐらいうちで預かったりしてます。

中国と仕事をする時，技術を盗まれる心配ってないんですかとよく聞かれますが，私どもはこちらから渡してますから。

私の基本的な考え方は先にも話しましたが，鉄道事業に関わる物は自国で出来ることが大前提です。

日本は独学で日本の新幹線作った訳です。

鉄道事業者さんから我々は技術を頂いてそれを磨きあげてきたものです。それを無償で提供する訳にはいきませんけども，他国の発展のために寄与できるんだったら大いにやって貰って結構だろうと。

今は国の境目がはっきりしてますが，最終的には人間同士なんでね。我々のアイテムが盗まれてると思うと癪に障るんでしょうけども，あげちゃって，それで上手くやんなさいよということでいいんじゃないかと。

しかし，実際にはそんな簡単なことではなく，上辺だけまねをするだけだと高速鉄道の衝突のようなことが起こります。

ベトナムで新幹線を作りたいという話がありました。ま，お金がないからって否決されましたけども，安ければいけるんだったら，中国で物作って納めたら安くなるじゃないか。それで品質をプロテクトすればいい。それは技術供与があれば十分対応できるんじゃないのかな。そう思うんです。

このことで私どもの市場が，今の商圏が倍になると思うてません。ただ今のままなら 100 が 80 になり 70 になり減っていくことは間違いないと思います。それを埋め合わせる物が何か要る訳ですから。

もう一つ私達が技術供与しようと決めた最大の要因は，うちの若手がそこの中で育って欲しいと思うからです。やっぱりええ格好して貰いたいなと，向こうに行ってあーじゃないこーじゃないと技術指導すると，言うた以上，ここでもせなあかんやろと。若手をプロにしないと我々もやっていけませんから。（150 ペ）

＊

本来，工業技術は秘密主義的になる傾向があるはずであるが，「こんなに楽観的でいいんだろうか…」と心配になるほど楽観的。後継者養成まで視野に入れているという

ことは，事業を発展または継続させていく目算ができているということだろう。

◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『アルベルト・アインシュタイン―相対性理論を生み出した科学者―』（筑摩書房・2014 年）

篠ノ井高校の新入荷図書のコーナーで発見。昨年（2016 年），同じシリーズの『黒澤明』を借りて，その読みやすさと内容が充実していることに感心していたので，借りてみた。期待に違わず充実した内容だった。

また，板倉聖宣先生の生き方と似ているところがあって，非常に興味深かった。どこが似ていると思ったのかを具体的に言えば，アインシュタインは①小学生の時に数学以外の科目は全くダメ。②高校生の頃を中心として，興味のない授業には関心を示さなかったので，学校の先生に嫌われた。③学生結婚した。④20 代，30 代で画期的な理論（光量子の理論・特殊相対性理論・一般相対性理論）を発表した。⑤靴下を履くのが嫌い。…等々。

ただ,板倉聖宣先生はアインシュタインが卒業し,教授に着任した学校について「《チューリッヒ工科大学》というのは誤訳で，正しくは《チューリッヒ工科専門学校》のはずだ」とかつてテレビ出演したときに仰っていたことがある。

また，アメリカ合衆国での原爆製造に関するアインシュタインの関わり方は記述が全く物足りない。この部分は省略しすぎか，あるいや意図的な隠蔽があるかもしれないと思ったほどである。真相はもっと勉強してみないとわからないが…。

しかし，全体としては「短時間で読める，中学生でも読める」伝記であり，かつ，密度の高い伝記であると思った。

◎藤井聡著『イヌの気持ちは〔見た目〕で 9 割わかる！』（だいわ文庫・2014 年）

我が家にはすでにネコが一匹いるのだが, 12 月に入って妻が突然,「犬が飼いたい」と言い出し，条件交渉の末，飼うことに決定。室内犬（シーズー×プードル）なのでトイレのしつけから始める必要がある。

慌てて司書の小田先生に相談して篠ノ井高校の図書館で探してもらったのがこの本。どこから見ても完全な「ハウツー本」。「骨のある」本を読むのに疲れたときにちょうどいいと思った。1000 字程度を単位として約 100 テーマについて書いてあるので，とても読みやすい。

面白かったテーマを次にいくつか列挙する。

「イヌの記憶はたった 20 秒しか続かない」
「いちばんつらいお仕置きは，怒鳴るよりも無視すること」
「無駄吠えは《吠えれば応じてくれる》と学んだ結果」
「芸を覚えるのはご主人様にほめてもらえるから」
「目線を外すのは飼い主をボスと認めているから」
「呼んでも無視するのは飼い主を下位だと思っているから」
「叱っているときのあくびは《ごめんなさい》の意味」
「服を着せるのは大迷惑」
「子犬の甘噛みは相手との関係を試している」
「リードを引っ張るイヌは飼い主をバカにしている」等々。
（人間も意外に犬に似ていたりして…。同じ哺乳類だものね。〔苦笑〕）

このような趣味的な本までさりげなく用意してある篠ノ井高校の図書館は素晴らしい。こういう本まで「読書メモ」で紹介する必要はないのでは？…と思うかもしれないが，今回の「読書メモ」ここから始め，数珠つなぎに分量を増やすことができた。その点だけでも，この本について書いておく意義はあると思う。気楽に始めて，うまくいった…というチョットした「成功体験」だったから。

◎佐藤優・池上彰共著『新・リーダー論―大格差時代のインテリジェンス―』（文春新書 1096・2016 年 10 月！）（私物）

昨年 12 月にネット書店で検索して発見・購入。アメリカ大統領選前の発行だが，トランプ新大統領が当選するという前提で書かれているところがすごいというか，日付のマジックがあるかもしれないというか，とにかく不思議な本である。

気になったところを引用する。

＊

…佐藤　現在は基本的にはデフレ傾向ではありません。物価指数からすれば，横ばいか，多少なりとも物価は上昇しています。つまり，インフレ期待はあるわけです。

そうだとすると，タンス預金のような貨幣退蔵は，経済的にはマイナスにしかなりません。なおかつ，盗まれるリスクもある。仮に警備会社と契約したとしても，職員が到着する前に盗まれて逃げられてしまうかも知れないし，月々の契約料もバカにならない。金庫の購入費用も，現在の銀行預金利率からすれば，何年分の利息になるのか分からない。

要するに，貨幣の退蔵は，まったく非合理です。それなのに，多くの人があえてそうした行動をとる。

池上　貨幣は，本来は商品を買うための手段にしかすぎないはずなのに，お金を持っていればいつでも何でも買えるということから，貨幣を貯めること自体が自己目的化してしまうわけです。

昔なら，金貨を貯めた壺をときどき取り出しては金の輝きを眺めてニンマリしたりする図といったところでしょう。そうなると，買い物をしてお金を減らすことをますます避けるようにもなる。この傾向が社会全体に広まれば，全体の消費が落ち込み，景気も回復しません。

佐藤　こういう過程を，近代経済学者はうまく説明できません。紙幣を貯め込むような非合理な行動が,なぜ生まれるのか。特定の人が非合理な行動をするのはわかる。しかし，なぜ全体が非合理になって，一億八千万枚もの一万円札が退蔵されるために刷られなければならないのか。

こんなことは，政府も，本来はやりたくないはずです。しかし，おそらく紙幣不足が実際に起きていた。それを日銀はきちんとモニターしていたからこそ，一億八千万枚の増刷を決定した。そして，そのことを報道させたのは,「紙幣がなくなることは絶対ありません」というメッセージだった。

池上　つまり，静かなる取り付け騒ぎになりかかったのでしょう。このままでは銀行からお金をおろそうとしても「お金はありません」と言われることになる，と危惧する人たちがいた。そこにマイナンバー導入も加わった。マイナンバーで資産がすべて把握されてしまうから,その前に引き出しておこう,という動きが重なったのです。

佐藤　おそらくロシア人なら，同じような行動はとらないでしょう。北朝鮮人もしない。彼らは，紙幣の切り替えを経験しているからです。

この種の貨幣退蔵が起きる経済においては，紙幣の切り替えによって流通量を減らす，という奥の手があります。ところが，日本では多くの人が金庫を買っている。これは，紙幣の切り替えをまったく心配していないことの証しです。しかし，思い起こしてみれば，敗戦直後には，新円切り替えがなされました。

池上　そうなんです。1946 年 2 月に預金封鎖をやっています。旧紙幣の預金は完全に封鎖され，世帯主が 300 円，それ以外は一人 100 円の引き出ししか認められませんでした。これにより，旧紙幣の預金の価値はほぼゼロになりました。新円切り替えと預金封鎖を同時に行うことによって，政府が国民の財産を間接的に没収したも同然

です。

佐藤　お札を持っていれば安心だなどということは，決してありません。貨幣退蔵によって金庫が売れている現象は，経済の論理だけでは説明がつかない。そういう日本人の心性も考える必要がある。

池上　日本人が貨幣を大事にしまい込むのは,それだけ日本の国家を信用している,ということですね。敗戦で国債が紙屑になって，国に裏切られた経験があるはずなのに,その経験がすっかり忘れ去られている。かつては,「国債なんか買うものじゃない」という年寄りがいたものでした。そういう人も身近にいなくなって，いまや個人向け国債を皆が安心して買っています。

佐藤　先日，中央政府の官僚，金融関係者，国会議員などが参加する会合で，日本の国債について議論したのですが,「コンソル公債（consolidated annuities)」が話題になりました。

池上　1751 年にイギリスが出した,償還されない代わりに固定の利子が永久に支払われる債券，いわゆる「永久国債」ですね。利子支払率が決まっているから，それを市場利子率で割れば，市場価値がわかる。

佐藤　そうです。それである官僚が,「日本の財政構造にはコンソル公債が効く」というのです。「コンソル公債」という名称に抵抗があるのなら,「償還期限 60 年の超長期国債」を出して，借り換えができる形にすればよい。これで財政危機は一遍に収まる，と。ただ，国際協調上の問題があって,「コンソル公債など出して自国のことしか考えていないのではないか」と批判される可能性はある。しかし，その点は，日銀の異次元緩和も,すでにアメリカから「為替ダンピングだ」と非難されているわけで,売り言葉に買い言葉で押し切れるはずだ，と。

「頭のいい官僚だな」と思って聞いていました。確かにこうすれば，プライマリーバランスも黒字化できる。

池上　イギリスが，かつてまさに同じような危機になったときに出したのが，コンソル公債でした。財務省もかなり以前から,「頭の体操」という意味でも，コンソル公債は検討しています。

佐藤　それで，ある国会議員が言うには,「佐藤さんが『資本論』を参照して，貨幣というのは癌細胞と同じだ,市場にとどまってずっと死なない,と言っていましたが,確かにそうです。だから，我々の政治の仕事は，貨幣を腐らせていくこと。つまり,それがインフレ政策です。しかしインフレにならず，デフレが起きたときには，コン

ソル公債のようなものを出して，中長期的には，インフレになるから，そのときに元本を返してしまえばいい」と。

イギリスはコンソル公債を償還するのに 200 年以上かけましたが，この手法が日本でも使える，と考える人たちが見ているのは，日本の人口動態です。

日本は 2060 年以降，大幅な人口減少プロセスに入ります。ですから，経済も，どうしても縮小プロセスに入ってしまう。もしそこで，特定の誰かから金を引きはがして，特定の誰かに与えるような形を取ると，社会が分断されます。ですから，全員に裨益（ひえき）する制度設計にしなければならない。

池上　そのためには，コンソル公債が有効だ，というわけですね。（183 ペ）

＊

他にも話題満載。「リーダー論」と銘打っているが，リーダー論として本格的なものだと言えるほどではなかったと思う。だけど，2016 年の時事的な話題がきわめて豊富だという点で十分に評価できる本である。

◎伊藤由佳理編著『研究するって面白い！』（岩波ジュニア新書・2016 年）

篠ノ井高校図書館の新着図書コーナーでたまたま発見。若手女性研究者 11 名がなぜその分野の研究者になったかということに関してそれぞれインタビューに答えている。もくじにザッと目を通してみると「尾形わかは」（ご存知，板倉聖宣先生御令嬢）という見慣れた研究者名が含まれていることを発見してビックリ。即，借りることにした。

研究者名と専攻分野は次のとおり。西田佐知子（植物分類学，植物生態学），細谷紀子（医学），尾形わかは（現代暗号理論），加藤嘉代子（環境衛生科学），吉田朋子（触媒化学，固体化学，放射光分光学），加藤知世（ケミカルバイオロジー，マラリア研究），石渡恵美子（数値解析），小島晶子（分子生物学），芳賀麻誉美（マーケティング，データサイエンス），南雅代（地球化学），伊藤由佳理（代数幾何学），以上 11 名。飛ばし読みで処理。芳賀麻誉美（まよみ）さんのページから引用する。

＊

知的好奇心を満たしながら，広い意味での社会貢献のできる研究者は非常に魅力的な職業です。研究者になりたいと考える若い皆さんに対して私から三つの助言があります。

時代の流れを敏感に察知することは，若い皆さんが 10 年，20 年と続く研究生活を

考える上でとても重要です。私自身は多くの研究者との幸運な出会いがあって，現在，この新しい分野に身を投じることができています。

ですから，若い皆さんには，もし研究者を志すのであれば，所属する大学を超えて一人でも多くの研究者と知り合う機会を模索し，大事にしていきなさいと第一に助言したいと思います。そうすることで，ほんのわずかな兆しから，研究の新しい動きを察知できる可能性が高まりますし，また自分の目指すべき研究の方向性も固まってきます。出会いは，時に，大きな方向転換の契機になることもあるのです。

二つ目の助言は，研究者としての就職先についてです。研究者というと，大学という組織で働く教員がその代表のように扱われていますが，このデータサイエンスという分野に限っては，メインプレーヤーが，大量の最新データを集積している企業研究者に移りつつあります。ですから，若い皆さんは，大学に限らず研究者になる道を広範に見据えていくことも最新研究に取り組み為に大事であると助言したいと思います。

高等教育という面に非常に強い興味と意欲をお持ちである場合を除くなら，必ずしも大学の教員という立場での研究職に固執しない方が，最新研究を推進していくことができる分野もあるということを理解してもらいたいと思います。

第三の助言は，研究をすると決めたら貫きなさい，ということです。私自身は家庭の事情で何度か研究をペースダウンしたことがありますし，非常勤講師やアルバイト生活を続けながら私費で研究を行っていた時期もあります。結婚，子育て，家族の転勤，介護，研究費不足など，研究を続けられなくなる理由はいくつでもあります。しかし，障害にぶつかった時に，完全にあきらめて辞めてしまえばそこでおしまいです。ちょっとの休息を挟んで頭をクールダウンすれば，新しい課題も見つかるかもしれませんし，それまで行ってきた研究を見直すには良いチャンスだと考えればよいのです。研究者になるためには，決してあきらめずに続けることが何より重要です。

以上の三つが，ほんの少し回り道をして，研究者になった私からの助言です。（143ペ）

＊

女性に限らず，また，プロの研究者になると言うことにも限らず，（アマチュア的な研究をしようとしている私たちにとっても）なかなか含蓄のある内容を含んでいると思うのだが，どうだろうか。

◎毛利仁美著『ファーストクラスに乗る人が大切にする 51 の習慣』（プレジデント社・2016 年）

（私物）

いわゆる自己啓発本。手許にすでにあった美月あきこ著『ファーストクラスに乗る人のシンプルな習慣』（祥伝社・2009 年）の続編がないかどうか検索したら引っかかってきた本。極めて短時間で読了した。自分の知らない世界の話でとても面白い。飛行機のファーストクラスに乗る人は機内では主に読書をしているという。どんな本を読んでいるか気になるところだが，139 ページにリストが掲載されている。どうやって記録していたかが気になるが，現場で得られたデータとして信用してみることにする。タイトル・著者（編者）・出版社の順に次のとおり。

＊

『六祖壇経』	中川孝	タチバナ教養文庫
『老子訳注帛書　老子道徳経』	小池一郎	勉誠出版
『孫子』	浅野裕一	講談社学術文庫
『論語』	金谷治（訳注）	岩波文庫
『言志四録』	佐藤一斎著・岬龍一郎訳	ＰＨＰ研究所
『貞観政要』	呉兢著・守屋洋訳	ちくま学芸文庫
『新釈　菜根譚』	守屋洋	ＰＨＰ文庫
『葉隠入門』	三島由紀夫	新潮文庫
『ガリア戦記』	カエサル	岩波文庫，講談社学術文庫など
『君主論』	ニッコロ・マキアヴェッリ	岩波文庫
『五輪書』	宮本武蔵	岩波文庫，講談社学術文庫など
『新訳　南洲翁遺訓』	松浦光修（編・訳）	ＰＨＰ研究所
『氷川清話』	勝海舟	講談社学術文庫，角川文庫ソフィア
『動物農場』	ジョージ・オーウェル	角川文庫，ちくま文庫など
『アンドロイドは電気羊の夢をみるか？』	フィリップ・Ｋ・ディック	ハヤカワ文庫ＳＦ
『ソクラテスの弁明・クリトン』	プラトン	岩波文庫，講談社学術文庫
『道は開ける』	Ｄ・カーネギー	角川文庫，創元社など
『名将言語録』	岡谷繁実	講談社学術文庫
『武士道』	新渡戸稲造	ＰＨＰ文庫，岩波文庫など
『竜馬がゆく』	司馬遼太郎	文春文庫
『真田太平記』	池波正太郎	新潮文庫

『唐詩選』　李攀竜　岩波文庫
『重耳』　宮城谷昌光　講談社文庫
『三国志』　吉川英治　講談社吉川英治歴史時代文庫
『ローマ人の物語』　塩野七生　新潮文庫
『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
マックス・ウェーバー　岩波文庫
『風姿花伝』　世阿弥　岩波文庫，角川ソフィアなど
『戦争と平和』　トルストイ　新潮文庫，岩波文庫
『罪と罰』　ドストエフスキー　新潮文庫，岩波文庫など
『ローマ帝国衰亡史』　ギボン　ちくま学芸文庫，岩波文庫
『小説十八史略』　陳舜臣　講談社文庫
『鉄道員（ぽっぽや)』　浅田次郎　集英社文庫，講談社文庫
『白夜行』　東野圭吾　集英社文庫

＊

ビジネスの最先端で活躍している人たちは要するに寸暇を惜しんで「古典」を読んでいるということが分かって興味深い。しかも，M・J・アドラー著『本を読む本』（米国で発売された原書）のリストにあるような重量級の本が多く含まれている。「分析読書」を試みる際のテキストとして利用できそうである。

◎美月あきこ著『ファーストクラスに乗る人のシンプルな習慣（コミュニケーション編）』（祥伝社・2011 年）（私物）

これもいわゆる自己啓発本である。そして，これも手許にすでにあった美月あきこ著『ファーストクラスに乗る人のシンプルな習慣』（祥伝社・2009 年）の続編がないかどうか検索したら引っかかってきた本。読みやすい。ただし，2009 年版のアマゾンでの評価は散々。「上から目線」で書かれているのが気に入らない読者が多かったらしい。私はさほど気にならなかった。むしろ，D・カーネギーの『人を動かす』をキャビンアテンダントの立場から見た形に「翻訳」すると，このような本ができあがるのではないかな？という感じで読めた。たとえば次のようなことが書かれている。

＊

…私は名刺交換をすると，その日のうちに相手に直筆でお礼状を書きます。しかも，善は急げ，すぐに届けるのが美月流です。

これはある出来事をきっかけに始めたささやかな習慣です。

以前，名刺交換をした次の日に，相手の方からお礼状が届いたのです。つまり，相手は名刺交換した当日に投函して下さったわけです。その方の行動力と誠実さ，細やかな気遣いが伝わってきました。

それで自分が受け取ったこの感動を，何かのご縁でめぐりあった方たちにも届けたいと思ったのです。

感謝の気持ちを伝えるなら，できるだけ早くする。それは，そのときに自分に課したルールです。

私は研修や講演で全国各地に出張する機会が多いので，それだけ全国各地の方々と知り合うチャンスが多くあります。たとえ地方にいても，会ったその日のうちに御礼状を投函します。それができるのは，あらかじめ切手を貼ったお礼状カードをバッグの中に入れてあるからです。

そのカードに素直な感謝の言葉を書き添え，その地を離れる際に，液や空港のポストに投函します。すると翌日には先方に届きます。

受け取った相手は，まず翌日に届いたことに心が動き，改めて私との出会いを喜んで下さり，長く記憶にとどめてくださっているようです。

私はこの習慣を続けているうちに，感謝の思いを素直に表現できるようになりました。ボキャブラリーも増え，表現力も豊かになったと思っています。

なお，御礼状は直筆のカードや手紙が一番効果的ですが，「私は悪筆なので，手紙は苦手」という人はメールでもかまいません。

その場合でも，出会った当日か，遅くても翌朝までにはメールを送りましょう。

メールであれ，手紙であれ，感謝の気持ちを届ける際のポイントは，素直な言葉で綴ることと「体温」を伝えることです。

「体温」を伝える，というとなんだか難しそうですが，すぐにお礼状が届けば，それほど「早く伝えたい」と思ったことの証明になり，体温をこめたことになるのです。

相手の記憶にとどめてもらうには，ほかの人とは違う印象，ひいてはインパクトが必要です。私は相手より先に，できるだけ速く行動することで相手に「驚き」を与えることが「感動」につながり，それがインパクトを与えると考えて，実行しています。

シンプルなことですが，すぐにできる人が少なくなっている今日，速さにおいて，一目置かれる存在になれるかもしれません。それをきっかけに，本当に信頼されるような努力を続ければよいのです。（167 ペ）

＊

このような内容を「いいこと」ととらえるか,「上から目線の自慢」ととらえるかは人によって異なるのであろう。私は「いいこと」として読んだ方が結局その人のためになると思う。根拠はなくただの直感なのだが…。

◎バスティアン・オーバーマイヤー他著・姫田多佳子訳『パナマ文書』（KADOKAWA・2016**年）**

昨年 11 月頃，信濃毎日新聞の書評コーナーでこの本があることを知り，図書館にリクエストして購入してもらった。「時間があるときに読んでみよう」と思い，家に持ち帰る。年末年始休業中には取りかかれず，結局学校に持ってきて,「積ん読」状態のまま。「今回は読むのを見送ろう」と思い，このメモを書くために巻末の日本版特別解説だけに目を通す。筆者は池上彰氏。一部を引用する。

…（「パナマ文書を発表すれば報復されるかもしれない」，また「捏造データをつかまされたら，99％のデータが本物であったとしても，その報道はアウトだ」という）二重のリスクを冒して報道された「パナマ文書」。その取材の裏側を読めることは幸せです。ですが，最後に一つ大きな謎が残ります。それは，この膨大な情報を提供したのは誰か，ということです。取材源の秘匿は，ジャーナリストのイロハ。したがって，本書からはヒントが得られません。そこから先の推測は，読者のあなたの楽しみに取っておきましょう。とのこと。

全 30 章にわたる力作だが，今回は「先送り」することにした。次の機会に読むことにする。

◎立川談慶著『大事なことはすべて立川談志に教わった』（KK **ベストセラーズ・**2013 **年）（私物）**

一般的に分類すれば自己啓発本の一種だろうが，ノンフィクションのジャンル分類で言うとこの本は「当事者手記」にあたる。その内容の頂点は，著者が厳しい修行の末，師匠・故立川談志に認められて真打ちになる場面にある。これは本当に素晴らしい上達論の本。一部を引用してみる。

＊

…かつて師匠（談志）に言われたことがあります。

「なぜ『いろは』を覚えて来いって言ったら,『いろは』しか覚えて来ないんだ。その

先が見えないうちは，俺は絶対昇進させない」
「唄を 10 コ覚えて来い」と言われたら 20,「踊りを 5 コ覚えて来い」と言われたら 10 覚えなければ駄目なのです。これは立川流の昇進にかぎらず，すべてに当てはまることではないでしょうか。「想定外も心がけて想定内のものにできる」ということにもつながってきます。…（170 ペ）
…嫌な相手には復讐をしましょう。ただし，誤解してはいけません。最大の復讐とは「対象相手より幸せになること」なのです。つまり，「無茶ぶり」を，この際「自分の思考，行動を広げる回路拡大」だと前向きにとらえるのです。…（中略）…相手が振ってくる無理難題を「解消ゲーム」としてとらえてみるのです。「自己の問題処理能力の回路増設」だと思うのです。無茶ぶりは「自分というソフトのバージョンアップ」だと考えれば，どうでしょう？…（中略）…たとえばそれがワンマン社長から振られた「どう考えても個人で御しきれない無茶ぶり」だとしたら，一人で悩んでいる場合ではありません。労働基準局に訴える前にまず組織全体としてシステマティックに受け止めるように仕向けるのです。これが落語家の世界と違って組織に所属している人間の一番のメリットです。組織組織とそのデメリットばかりを連呼する風潮がありますが，とんでもありません。組織ってじつはものすごく便利な装置なのです。個人の責任を上手に分散できるのですから，これを使わない手はありません。…（99 ペ）

＊

この本は前から気になっていた本だが，年明け 2 日にながの東急シェルシェに新装成った平安堂書店で初めて実物を手に取ってみた。立ち読みしてみてなかなか面白かったのでネット注文して購入した。

よく居酒屋のトイレに飾ってあるような三流詩人の人生論は好きではない。この本にはああいう説教にあるような鈍重さが全くなくて，逆にスポーティな感覚で綴られているのがいいし，どの話題でもその内容に「笑い」と私好みの「毒」が含まれているところがいいなと思い，気に入った。

◎島下泰久著『2017 年版・間違いだらけのクルマ選び』（草思社・2016 年）（私物）

毎年買っているクルマの本。今のところ新車を買う予定はないが，長い目で見て「予習」になるし，何より，そのクルマに乗ったかのような感覚が間接的に楽しめるのがこの本の魅力。私たちの「俺はあのクルマに乗れていないから，島下さん，かわりに乗ってみてその印象を，あのクルマのことについてもう少し詳しく調べて詳細を教え

てくれないか」という要望を実現してくれるのだ。これも知的好奇心の範囲内に入るのだと私は思っている。

ただし，故・徳大寺有恒氏が書いていたものと比べてだいぶ「味」が違う。徳大寺氏（昨年末の『週刊新潮』によれば，氏には愛人が少なくとも 4 人はいたという！）の本には贅沢（悪く言えばそれは「浪費」でもある）の香りが感じられたが，島下氏の文体からは，それは感じられない。

また，徳大寺氏が活躍していた頃とは時代が変わって，クルマに求められるものが変わってきている。たとえば 1980 年代ごろには「スポーティな豪快さと男性的な力強さ」,「ステイタス・シンボル（階級的な優越感）」,「優雅さ・贅沢な味」が求められていたが，近年では「環境への配慮」,「低燃費・省エネルギー」,「クラスレスな感覚」,「自動運転」,「安心・安全」,「シェア（共用）できること」,「女性に受ける可愛さ」2017 年の自動車業界の動向を一言でいうと「自動運転化の流れはもう止まらない」ということになりそうだ。米国大統領がトランプ氏になったことは，今後の自動車業界にどのような影響を及ぼすだろうか。しばらく目が離せない。

◎塩野米松・聞き書き『刀に生きる―刀工・宮入小左衛門行平と現代の刀職たち―』（角川書店・2016 年）**（私物）**

坂城町在住の刀匠，宮入小左衛門行平氏ほか全六人（刀工，研ぎ師，鞘師，塗師，白銀師，柄巻師）の仕事について塩野米松氏が聞き書きした最新作。聞き書きなのでとても読みやすい。

宮入氏に割かれた紙面は本書の約半分で，これがメインである。後になればなるほど扱いが少なくなり，重みも小さくなるという印象。私個人としては宮入氏の部分が圧巻であとはオマケという感じ。それもそのはずで，刀剣という作品自体とその装飾品との力関係からしてそういうものだから，紙面にもそれが反映されているに過ぎないのだと思う。

美術刀剣の歴史的な意義，今日的な意義の説明から始まって，刀剣の作り方の要諦を細やかに紙面に定着させていく意義深い仕事ぶりに感心した。

これを読んだから刀が作れるというものではないが，刀づくりを目の当たりにしているかのような，また，時間を止めて刀づくりの科学的な手法を訊いているかのような臨場感がある。「この作業にはどういうコツがいるのか」,「この作業にはどんな意味があるのか」という読者（聞き手の塩野氏がその代表ともいえる）の疑問に宮入氏が

懇切丁寧に，また包み隠さず答えてくれている。

また，宮入氏の青春時代のことや，名優・故・高倉健さん（本質を見抜く目を持った，贅沢を知っている人だと思う）との交流のことなどが書かれており，とても興味深い。温厚で親切，率直で飾り気のない宮入氏の人柄がよく伝わってくる作品だと思った。一部を次に引用。

＊

…高倉さんは一本一本の刀に対して細かく何か喋るようなことはないですね。あの人もうちの父とよく似てるんです。直感が鋭い人で，物の美醜を一瞬にして見抜くんですね。「けい（宮入氏の本名）ちゃん，これ美しいねえ」の一言です。

贈り物用なんかだと，「美しいね」「美しい物作ってくれてありがとう」って。

高倉さんが紫綬褒章を受章した時の記念に短刀作らしてもらいました。それは朱塗りのいい拵が付いてます。そんなふうに折に触れ，何か作らせてもらってるんです。三，四年前でしたか，「あの刀の拵は，いつになる」って聞かれたので，まだちょっと金具がいいのがなくてとか言ってたんです。そのときに，僕が「これができちゃうと縁が切れちゃうみたいで嫌だなあ」って言ったら，後で「そういう寂しいことは言うな」「もっと深いところで繋がっているんだから」って手紙をくださいました。本当に涙が出てきます。…（123 ぺ）

＊

この本のつながりなどで高倉健氏に興味がわき，検索の結果，高倉氏の著書を手に入れた。後日，メモを書くことができると思う。

◎齋藤孝著『新しい学力』（岩波新書 1628・2016 年）

まえがき，あとがきから読んで，中身は 10 分で飛ばし読み（アドラー著『本を読む本』にある「点検読書」）。最も気になった（気に入った）ところに付箋を貼っておいて，ここに抜き書きする。

＊

はじめに　より

…私が心配しているのは，問題解決型の学力やアクティブ・ラーニングが強調されるあまり，教師や親が浮き足立ち，子どもたちが本当に意味のある学力を身につけ損なうという事態が起こりうることである。アクティブというイメージに引きずられ，その形式や手法をただ真似たからといって，学力が向上するとは限らない。むしろ低下

することも十分考えられる。「新しい学習理論では，アクティブ・ラーニングが有効とされる」「アメリカなどの諸外国ではアクティブ・ラーニングが重視されている」などの意見を単純に鵜呑みにして，新たな学習方法の導入に気を取られ，従来の伝統的な学力が持っていた長所を失うのは非常に惜しいことである。

私はこの新しい潮流に反対しているわけではない。私自身が大学で行っている授業はアクティブどころかスーパーアクティブともいえる激しく活性化したスタイルであり，アクティブ・ラーニングの重要性は熟知している。学習者が自分の頭で考え自分の意見を効果的に述べることができるようになるまで，しっかりトレーニングをさせる。これは教師として当然の責務である。だが，アクティブ・ラーニングという手法の単なる真似事を皆がこぞってやりだし，かえって学力が低下するというのでは，あまりに馬鹿げているではないか。…（ⅳペ）

＊

…「アメリカに比べて，日本の教育では個性や主体性を伸ばせない」，一般に，そうした意見は良く耳にするところである。アメリカのように，一人ひとりの個性を見抜き，「天才」が生まれる教育をしなくてはいけない。本当にそうだろうか。

結論から言えば，日本が現在，「追いつき，追い越せ」と参考にすべきモデルとなる他国はない，と私は考える。アメリカの教育がどれほど問題解決型でアクティブ・ラーニングが活用されているとしても，問題解決能力調査の結果がこれでは，本当に成果が出ているのか疑問を禁じえず，少なくとも単純にモデルとはしにくい。アメリカの，経済格差・教育格差がますます広がりつつある現状をみれば，目指すべき社会の在り方がそこにあるともいいにくい。

当然様々な問題はあるとしても，一般に日本は今のところ比較的平和で安全で清潔な社会であり，生産性が高く質の高いサービスが提供される社会でもある。日本よりも平和で安全で機能性の高い国を見つけるのはなかなか難しい。このような高い文化水準と経済力を兼ね備えた社会を，単純に「今までのやり方は古くさい」と切り捨てるのは，あまりに判断の事実的基礎を欠いたものではないだろうか。

歴史をさかのぼってみるとき，例えば明治維新を成し遂げた人々は，「学力」ということでいえば，徹底的に「素読」を中心とした伝統的な教育を受けた人々である。問題解決型学習とは程遠いようにみえる素読を技として身につけた人々が，現実に押し寄せてきた植民地化の波から日本を救い，欧米列強に追いつくという，大きな「問題解決」を成し遂げたのである。

あるいは，第二次世界大戦の焼け野原から立ち上がり，世界第二位の経済大国にまで成長を遂げ，同時に平和で民主的な社会を作り上げてきた人々の中心は，戦前の教育を受けた世代の人たちであった。個性や主体性とはかけ離れた教育を受けたように見える人たちが，昭和二十年代，三十年代に，爆発的な学習意欲を示し，これまた「問題解決」を成し遂げた。

つまり，日本の近代史において，最も主体的に動き問題解決を成し遂げた世代とは，現在でいうところのまさに「伝統的な教育」を受けた人たちであった。この事実をしっかり確認しておきたい。

教育には逆説というものがある。個性を尊重しようというスローガンのもと，教育改革を進めてきたこの三十年に，はたして個性化は進んだのであろうか。むしろ明治，大正，戦前生まれの人々の方が精神的に強く個性的であったようにも思える。ゆとり教育の時期に学校教育を受けた生徒たちが，その「ゆとり」を活用して，以前の世代がやりたくてもできなかったような主体的な勉強をし，知的好奇心を持って学習に取り組んだという事実も特に見受けられない。単に勉強時間が減っただけという方が事実に近いだろう。

教育現場においては，いかにも聞こえのよい理想を掲げることだけが是とされるべきではない。仮にベストではないとしても，現実に一定の効果が保証される，間違いのない安定的な教育方法を提案することも重要な大人の責務である。

先ほどみた PISA2012 年調査の結果に戻ると，総じて東アジアの国・地域が上位を占めている。繰り返すがこれは記憶中心の学力テストではなく，問題解決能力調査である。ここにも逆説があるように思う。

もともと東アジアの国々は，勉強に対する意欲が高いといわれる。韓国でも中国でも，高校入試や大学入試で非常に厳しい競争が行われる。興味や関心といった要素よりは，とにかく試験で求められる学力を身につけることに毎日夜遅くまで必死に取り組む。その中心は記憶であり問題演習である。いかにも伝統的な学力を問う試験に対して，伝統的な学習法で地道に忍耐力を持って取り組むスタイルが，東アジアの一般的な学習スタイルである。

私見だが，これには科挙の伝統の影響もあるのではないだろうか。かつての中国では，「四書五経」の暗記を中心とする知識を習得することが，官職を獲得することへの道となった。そのための試験が科挙である。記憶を中心とした勉強をすることが将来をひらく。そして科挙の試験を通った者が重要な役職に就くことができる。そうした

試験のシステムが中国で行われたことの文化的影響を，韓国や日本も受けているのではないだろうか。

こうしたいかにも「知識詰め込み型」の，科挙型試験の在り方には当然批判もある。もっと思考力や人間性，意欲をみるべきだという批判ももっともである。しかし，いわば「科挙文化圏」にあると思われる東アジアの国々が，問題解決能力調査の国際比較で上位を独占しているという事実はもっと注目されてもよいだろう。科挙型の伝統的な試験に向けて勉学を続けている地域の方が，問題解決能力にも優れているという「教育の逆説」が，実際に生じているからである。

とにかくまずは，欧米風のアクティブ・ラーニングを本格的に導入していない国々がむしろ問題解決能力調査の結果に優れているという事実に注目し，浮き足立たないことが肝要である。一時期，この調査で上位にあったフィンランドは，思考力を伸ばす教育方法を実践しているとして注目された。もちろんその教育方法にはいいところもあるが，少なくとも 2012 年の結果では，フィンランドは三項目とも日本より下位に位置する。（69 ぺ）

＊

以上の抜き書きで本書の要点のかなりの部分は押さえることができていると思う。

◎齋藤孝著『偉人たちのブレイクスルー勉強術』（文藝春秋・2010 年）

アマゾンで検索中に発見し，レビューを見て興味を持ち，購入に至る。安い文庫版も 2012 年に出ているが，読みやすさを重視してソフトカバー版を選んだ。

「プロローグ」の最初の部分から「です・ます調」，「だ・である調」が混交しており，気に入らない。それでも気にせず一応，目次を点検。

勉強法の手本として紹介されている偉人は，ドラッガー，本田宗一郎，スティーヴン・キング，夏目漱石，ゲーテ，吉田松陰，福澤諭吉，渋沢栄一，ココ・シャネル，木田元，坂口安吾，シュリーマン，佐伯祐三，アインシュタイン，南方熊楠，村上春樹，以上 16 名。柳沢が特に気に入った偉人とその勉強法は次のとおり。

ドラッガーの勉強法の特徴は「アクションプラン」を立てることにある。アクションプランとは，①目標を設定する。②期限を定める。③実現に向けて具体的に調整する。以上三つの組み合わせのこと。

スティーブン・キング（小説家）の勉強法は，①まず場をつくり，②外の世界を遮断してはまり込み，③沈潜する，以上三つのプロセスの組み合わせの習慣化にある。

吉田松陰の教えは次のとおり。「志を立てること，これがすべての出発点である。そして，公有する友を選び，自らの仁義の実戦の助けとすること。書を読み，古今の聖賢の教えを考え，身につけること」（上田仮説サークルで勉強することに似ている）

渋沢栄一は『論語講義』（講談社学術文庫）という研究書を出していて，これは文庫で七巻という大著である。自分で読み，人から講義を受け，自分でも話し，『論語』で「ものごとをすべて考えられる」ように＝「自分の問題として引き寄せて考えられる」ようにしてしまった。渋沢栄一の判断の基本となる古典は『論語』であった。

＊

自分の勉強法を見直す判断基準となる様々な尺度が得られる点で有用だと思った。

◎佐和隆光著『経済学のすすめ―人文知と批判精神の復権―』（岩波新書 1622・2016 年）

篠ノ井高校図書館の新館図書コーナーで発見し，タイトルから「経済学を俯瞰するためのガイドブック」であろうと思って借りてみたが，内容は「経済学に人文知と批判精神を取り戻して，現状を打開するための具体的提案」というものであった。文章はよく引き締まり，かつ明快であり，読みやすかった。本書を飛ばし読みするのはもったいないと思ったので，少し丁寧に読んで，気になったところを引用紹介する。

＊

「はしがき」より

…本書のタイトル『経済学のすすめ』の意味するところは次のとおりである。「教科書化」された経済学を学び，くわえて文学・哲学・歴史学・思想史を学び，そして経済学を水面下で支える思想信条に基づく批判精神を培う。文科省の言う「真の学力」の核となる思考力・判断力・表現力を鍛えるために，モラル・サイエンスとしての経済学がいかに役立つのかを本書で解き明かし，「そうなんだ」と読者に納得していただきたい。…（ⅲペ）

＊

…アベノミクスすなわち安倍政権の経済政策は，新古典派なのか，ケインズ派なのか。この設問に対する私の解答は「どちらでもない」である。あえて分類すれば，それは「国家資本主義」にほかなるまい。…（98 ペ）

＊

…国立大学の経済学部教員の大半が，小泉政権による国立大学法人化に賛同していた。法人化の始まる前の年，私は衆院文部科学委員会に参考人として招致され，次のよう

な見解を申し述べた。

「学術研究の場に市場原理を持ち込むべきであるとの現状認識が，大学改革のそもそもの原点にあったはずです。ところが実のところ，研究の主体は組織ではなく個人であるという私の仮説から出発すれば，法人化法案の目指すところは，日本の国立大学のソビエト化にほかなりません。中期計画・目標を評価委員会の意見を聞いた上で文部科学大臣が認可して，６年後に中期計画の達成度につき評価委員会が評価をくだすという図式は，かつてのソビエト連邦の経済運営をほうふつとさせます。評価委員会はソ連の国家計画委員会，大学法人はソ連の工場なのです。ソ連の経済体制が自由主義経済体制をしのぐという 1970 年代半ばごろまでの常識は，70 年代後半に入り，もののみごとに覆されました。

それと同じく，組織を研究の主体とみなす計画主義的な大学改革もまた，それほど遠くない将来，憂き目を見ることはほぼ確実です。なぜかと言うと，経済の計画が不可能だったのと同じく,科学･学術研究の計画もまた不可能なばかりか有害なのです。研究には多大の不確実性がつきまといます。研究成果を事前に予測することは，神ならざる人間にとっては不可能な仕業なのです。したがって，研究は経済以上に中央集権的な計画になじまないのです。必要なことは，ここの大学法人に対して，できる限り多くの自由度を与えて，創意工夫の発揮を督励し，多様な大学法人をつくる余地を与えることです。

科学・学術研究にとって，画一性は，障害となりこそすれ，促進剤とはなり得ません。科学・学術の研究を促進するには，多様性の確保が何よりも肝要なのです。そのためには，学界における個々の研究者の評価こそが重んじられるべきであり，組織の評価を対象としたり，評価する主体が中央集権的な委員会であったりしてはならないのです。

くわえて，有用性という尺度で学問の価値を測るという愚を犯してはなりません。かつて京都大学数理解析研究所の教授を務められた伊藤清先生は，確率微分方程式というまったく新しい分野を開拓されました。伊藤先生は，御自身の興味と関心のはせむくまま新領域の開拓に励まれたのですが，数十年後に，伊藤の確率微分方程式は金融工学にとって欠かせぬツールとなったのです。

学問の価値を測る尺度をどうするのかもまた，大学法人の自主性に委ねられてしかるべきです。無用の学を尊重する大学法人の存在を保証するべきです。一見無用であっても，予想もしなかった応用分野が後に見出され有用性を発揮する例は少なくあり

ません。目先の有用性を尊重することは，戦略的に見ても，決して賢明な方策とは言えません。

日本経済が目下の長期停滞から抜け出すためには，工業化社会からポスト工業化社会への速やかな以降をなし遂げることが必要不可欠です。1960 年に策定・公表された所得倍増計画が，科学・学術研究を経済の僕とすること，狭義の有用性を学術研究の評価基準とすることを政府が公式に認知いたしました。以来，日本の科学・学術政策はこの路線上を突っ走って参りました。工業化社会における高度経済成長の動力源の一つとして，こうした路線が欠かせぬ役割を果たしたことは紛れもない事実です。しかしながら，こうした科学・学術政策はポスト工業化社会向きではありません。人文社会科学や芸術の振興を，理工学や医学の振興と併行させることこそが，ポスト工業化社会への移行のために必要不可欠な戦略であることを強調して，私の意見陳述を終えさせていただきます。（第 156 回国会文部科学委員会第 10 号〔平成 15 年 4 月 23 日〕議事録より要約）」

法人化の約一年前の私の意見陳述だが，かなりの程度まで法人化問題の正鵠を射抜いていたのではあるまいか。…（90 ペ）

＊

…ヨーロッパの経済学者の多くは，次のように考えている。「経済学は論理学の一分野であり，一つの思考法である。経済学はモラル・サイエンスであり自然科学ではない」と。モラル・サイエンスとは，イギリス経験論の伝統にしたがえば，自然科学と対をなす，人間的行為を対象とする学問である。モラル・サイエンスとしての経済学は，社会のあるべき姿を想定し，現実社会を，あるべき社会にできるだけ近づけるための手段を研究する学問である。経済学がモラル・サイエンスであるからには，異分野の人文社会科学をよく学び，「社会のあるべき姿」の何たるかについて人社系の知を総動員するだけの心構えが，経済学者には求められるのではないだろうか。…（186 ペ）

＊

「米国の大学の授業でよく使われている文献トップ 100」の紹介。（柳沢による別紙 1 月例会用資料参照）…（201 ペ）

＊

私が本書で言いたかったことを要約すれば，次のとおりである。今，経済学は，その存在意義を問われている。歪んだ制度化の桎梏（自由を束縛するもの…柳沢調べ）から経済学を解き放ち，教科書化された経済学を学びつつ，豊かな人文知と旺盛な批

判精神に満ち溢れた人材を養成する。これこそが，大学経済学部の果たすべき役割である。ひいてはそれが，自由主義，民主主義，個人主義という近代西欧の価値規範をこの国に根付かせるための礎となる。今，私が願うのは，モラル・サイエンスとしての経済学の健全なる復権なのである。…（204 ペ）

＊

「あとがき」より

…本書で私が主張したのは「人文知と批判精神の復権」，言い換えれば，「モラル・サイエンスとしての経済学を学ぶことが，思考力・判断力・表現力を研ぎ澄ます最短の近道であることを，読者諸兄姉に悟って頂くことを願ってやまない。…（210 ペ）

＊

◎元永知宏著『期待はずれのドラフト 1 位』（岩波ジュニア新書・2016 年）

この本で紹介されている選手は全部で七人。カバーにあるキャッチフレーズをそのまま紹介する。

＊

高校や大学，社会人野球で華々しく活躍し，期待されてプロの道に進んでも，誰もが思い通りの成績を残せるわけではない。ケガに苦しみ，伸び悩み，やがてひっそりとユニフォームを脱ぐ……。しかしそれは人生のゲームセットではない。真価を問われるのはその後だ。新たな道を歩む元ドラフト 1 位選手たちのそれぞれの生き方をたどる。

＊

20 分ほどで要所に付箋をつけながらサラッと飛ばし読みして印象に残った部分を次に紹介。敬称略。

１.水尾嘉孝

…「仰木監督から学んだことはたくさんありますが，一番大きかったのは何かが起こった後の対処の仕方でした。内野手のエラーやピッチャーの暴投によってピンチになることがあります。いくらプロ野球選手でもミスをするもの。そんなとき，だいたいの監督は「なにやってんだ！」と激怒します。そして，グラウンドにいる選手もベンチも思考停止状態になるのです。コーチもみんな，指揮官の怒りが収まるのを待つ。すべてが止まってしまうから，次の一手が遅れてしまうのです」

しかし，名将と呼ばれる仰木監督はそうではありませんでした。

「ことが起こった瞬間に，すぐに手を打ちます。相手よりも先に指示を出して，選手たちを動かしていました。一呼吸置いてから，一人で怒る（笑)。仰木さんは反応ではなく，対応をしていました」…

…「同じ失敗を二度はしないこと。私の人生は失敗だらけでしたけど，これだけは決めています。自分では賢くないとわかっていますが，バカにはなりたくない。バカは同じ失敗を何度も繰り返しますから。私はスタートが遅かったので，そこに気をつけて，やるしかありません」…

２.的場寛一

特になし。

３.多田野数人

「打たれたピッチャーに《なぜそんなピッチングをしたんだ！》と怒っても何も解決しません。むしろ萎縮して力を出せなくなる可能性があります。失敗したときにどのように声をかけるのか，うまくいかないときにどうやって導くのか。日本のコーチはやってはいけないことばかりをしているように思いました」…

４.江尻慎太郎

アマチュアとプロでは大きな壁があり，レベルの高いプロ野球では「これまでと同じ」ではなかなか通用しません。何かを変える必要が出てくるのです。ことが上手く運ばないときこそ，変化が求められます。しかし，成功体験のある人は，変えることを怖がるもの。だから，欠点を修正することができず，ひっそりと消えていくケースが多いのです。…（中略）…何を変えて，何を変えないのか。これはすべての選手に突きつけられる大きな大きな課題です。

＊

「小林コーチに《江尻＝サイドスロー》というだけで周囲の見方は変わるだろう。俺が責任を持つ！」と言われ,(サイドスローに投げ方を変えることを)即決しました。その日から横で投げ始めました。技術的なことではなく，マーケティングの観点からのアドバイスだったので，しっくりきました。「市場（マーケット）をしっかり見なさい」ということ。…

＊

…「もちろん，オーナーの孫正義さん，会長の王さんの存在も大きいですが，環境，設備，人材，すべての面で（ソフトバンク・ホークスは）恵まれています。ほかの 11 球団と比べることができないくらい。新人からずっといる選手たちは気づきづらいかもしれませんが，3 球団でプレイした私は大きな違いを感じました。ソフトバンクは本気で世界一のチームを作るつもりですし，日本のプロ野球全体のレベルを上げようと考えています」…

＊

アマチュア時代に輝かしい成績を残してプロ入りしながら活躍できない選手は変わる勇気が足りないのかもしれません。

「プロ野球には《コーチに潰された》と嘆く選手がたくさんいますが，これはカッコ悪い。コーチに何かを言われて消えてしまう程度の実力しかないと自分で宣言するようなものではないでしょうか。アマチュアとプロは別の世界なのですから，過去の成績もやり方も通用しないと考えた方がいい。自分のキャリアや栄光を振り払うことは難しいし，大変な作業だと思います。

私もいろいろなコーチに指導を受けましたが，コミュニケーションが大事だと思います。結局，最後は自分です。指導されたことをどう生かすかは自分次第です」…

＊

…「二度目の面接の席で，ソフトバンクコマース＆サービスという会社の役員に《江尻さん，ここ，IT の最先端の仕事をするところだけど，大丈夫？》と言われました。私は会社の業務内容について詳しくなかったのですが，「大丈夫です。最先端なら大丈夫です！」と即答しました。本当に最先端の部署ならば，専門家の人も同時に勉強しなければならないということでしょう？　私は勝手にそう解釈しました」…（中略）

…「実際に仕事をしてみて私の考えが間違っていないことがわかりました。同じ部署の人はそれぞれにキャリアを持っていますが，目の前で起こるであろうことに対してはみんなが初体験。同じタイミングで学ぶことが多いのです。新しいサービス，新しい商材に関して，私の意見も尊重してもらっています。すばらしい環境で迎えてもらったことに感謝しています」…

５.河原純一

…何を変えるのか，何を変えないのか。

河原さんも成果が出ないルーキーのひとりでした。難しい課題をかけたあげく，コ

ーチのアドバイスを聞くことを選択したのです。

「私はすごく器用だったので，コーチに言われたことはすぐにできました。《やれ》と言われた通りにやって……少しずつ何かが崩れていったような気がします。いま振り返ってみれば，大学時代のピッチングが認められてドラフト１位で指名されたのですから，二軍で少しくらい結果が悪かったからといってジタバタする必要はありませんでした。コーチのアドバイスでも聞き流すことができればよかったのですが……自分のやり方を押し通す強さが足りなかったのかもしれません。

プロ野球は《自分》を持っている人だけが生き残る世界。まわりに影響を受けたり，他人に気を遣いすぎたりする人は生きにくい。特に巨人ではそうだと思います」…

＊

最高の状態で勝負に挑むのもプロなら，万全ではなくても全力を注ぐのもプロです。

＊

…「肩を痛めたことでベストの状態で投げることはできなくなりましたが，別のことで補って戦うことができました。スピードが出ないのならボールのキレで，ボールのキレが悪いのなら配球で。それでもダメなら，希薄で勝負すればいい。100 パーセントではない状態でどう戦うか，メンタルの鍛え方，コンディションの整え方などを学ぶことが多かったので，これからの指導に役に立つと思います」…

６.藪恵壹

もちろん，メジャーリーガーを手取り足取り指導するコーチはいません。だから，映像を細かく見て，自分で変えていったのです。

「バッターの映像もたくさん見ました。アスレチックスは遅れていて，まだビデオテープでしたが，選手ごとにまとめられているのを徹底的にチェックしました。バットがどの角度で出てくるか，どんなタイミングの取り方をするのか，好きなゾーンと嫌いなゾーンはどこか。ひとりひとり細かく見ていきました。初めて対戦するバッターでも，映像を見ているか見ていないかで結果は全然違います」…

＊

…「野球は日々，進化しています。その中で生き残ろうとするならば，技術も刷新し，意識も変えていかなければなりません。私の場合，メジャーからも実戦からも離れていたのですから，昔と同じやり方が通用するはずがありません。野球は，対戦数が増えれば増えるほど，どうしてもバッターが有利になるスポーツです。打たれる確率を

減らすためにはどうするかを必死で考えました。どうやってバッターの上を行くか，が大切ですね。《バッターにストライクが来たと思わせろ》とジャイアンツのピッチングコーチに言われました。《打てる！》とバッターに思わせてボール球を打たせるのが一番いい方法だと教わったのです。プレートの踏み方，ボールの変化のさせ方，バッター一人あたりの球数を減らす方法など，工夫することはたくさんありました」…

７.中根仁

…「足の速さや肩の強さ,バッティングの確実性はプレイを見ればすぐにわかります。表面に出にくいのが，頭の中，考え方の柔軟性です。プロの壁を突破できずレギュラーをつかめない選手の多くが，やわらかさにかけているように思います。《自分》を持つことは大事ですし，頑固でもいい。ただ，視野が狭くて誰のアドバイスにも耳を貸さない選手は長く活躍するのが難しい。人の意見を聞いたうえで役に立つことだけを受け入れる選手や，頭の切り換えの早い選手は上達のスピードが速いですね」…

＊

…「佐々木（主浩）は自分が師匠と認めた人の意見しか聞きません。相手が先輩でもコーチでも,《聞き流す力》がありました。野球に関してはものすごく頑固。彼の場合はそれが良かったのでしょうね」…

＊

…「最初にいくらいい成績を残しても，頭が固くて意見を聞かない選手はそれなりのところで止まってしまいます。自分で思っているとおりにやれないのに，現状を変えることもできない。これが数年続くとトレードに出されたり，ユニフォームを脱ぐことになったりします。アドバイスを聞かないから，周囲から人が消え，チームで孤立することになります。やっぱり大切なのは頭の柔軟さです」…

＊

…「あまりにも自分の考えがなさ過ぎるのも問題です。ちょっと試しては元に戻し，また別のことに手を出してしまう。一カ月ごとにバッティングフォームが変わる選手もいました。不安だから誰かにすがるのでしょうが，それでうまくいった人は見たことがありません。自分の真ん中にしっかりとした芯がないと，おかしな方向に行ってしまいますね」…（以上，下線は柳沢）

＊

読後の感想

①アドバイスを受け入れすぎ，変えなくても良いことまで変えてしまって失敗する。
②アドバイスを受け入れて，自分の方法を変えて成功する。
③アドバイスを聞き流して，自分の方法を変えずに成功する。
④アドバイスを受け入れず，自分の方法を変えずに失敗する。

以上の４パターンがあり，ケイス・バイ・ケイスであるところが難しい。自分のこととしてとらえなければ，面白さを感じるところでもある。授業書の改訂の時の考え方もこれに似ているところがあると思う。それにしても，プロって厳しいなあ…。

◎川崎享著『英国の幻影』（第三企画出版・創英社・三省堂書店・2015 年）（私物）

これは気楽に読めて，しかも面白い本。私が以前から興味を持っていたことがら，たとえば，英国の成り立ち・キリスト教・英語・ロイヤルソサエティ・ファッション・フリーメイソン・ユダヤ人・マルクスと資本論・クラシック音楽・伊丹十三・日本＝属国論…などの要素がてんこ盛りでとても興奮した。

この本は何か論理的なことを肩肘張って主張する本ではない。また，どうでもいいことをつらつらと書き連ねたエッセイ集でもない。英国に関する理解を深めるためのガイドブックという位置づけが適切だと思った。将来，スコットランドが独立することになれば本書の存在価値はぐっと下がる。読むなら今のうちである。

文体はタッチが軽く，旅行ガイドブック風でもあり，どこかとぼけた風情が感じられ，あっさりとしていて読みやすい。ただし，推敲が少し甘い。

「はじめに」に「興味がある章から読み始めても差し支えない」とあったので，関心が強い章から順に，７章・６章・５章・１章・２章・３章・４章と読み進めてみた。確かに何ら差し障りがなかった。最も退屈だったのは４章で，年代と人名がたくさん出てきてちんぷんかんぷんになりかけた。何はともあれ気になったところを抜き書きして紹介する。

＊

…日本史上において最大の外交的敗北は，じつは外交の素人である国民世論の勢いを外交のプロである外交官たちと国家指導者が抑えきれなかった点にあると言える…（49 ペ）

＊

…しかし，これ（武田千代三郎〔大正期に活躍，大日本体育協会副会長〕の「人の体力，気質，品性は机の前に求むることはできない。競技運動に求むるべき」との考え

方）に対し明治政府の文部大臣である森有礼（ありのり）は「知育」「徳育」「体育」をそれぞれ分けてしまったため，日本においては「スポーツ＝体育」と認識されるようになってしまったのです。

この明治政府の方針により，スポーツに「知力」「徳力」が含まれるという考え方がすっぽりと抜け落ちてしまったことは，日本において「知育」が重視され，「体育」「徳育」が学習の中で軽んじられてきた大きな理由でしょう。

今日において社会が求めているのは「知・徳・体」の順番ではなく，「体・徳・知」の順ではないでしょうか。人間は初めに「体」が第一にあるはずで，まさに「健康な精神は健康な肉体に宿る」ことは間違いありません。…（52 ペ）

＊

島国として大陸から切り離された場所にあった日本では，民族の移動も起こらなかったことで根強い自然信仰が育ち，「八百万の神」と言われるように万物に神が宿るという思想が定着したのです。神道も仏教もキリスト教も併存する国，これが日本人の大きな特徴の一つであるのは言うまでもありません。

もっとも同じ多神教でも，ギリシャ神話やヒンドゥー教などでは様々な神様がいるものの，神々が争うような闘争的な多神教となっています（推敲甘い：柳沢）。これらの神話はまず神が存在するところから始まりますが，日本の神話は神々が存在する以前から天や混沌（カオス）が最初にあるというところから始まっています。それが大きな違いです。

英国は世界で初めて近代化，工業化を成し遂げた国です。ロンドンを中心に都市化の波も早く進みました。しかし，現在でもロンドンをはじめ英国の都市はゆったりとした何か癒しを感じるところが多いのです（推敲甘い：柳沢）華やかなニューヨークやパリとは趣を異にしています。特に，英国の田舎となるとそこはまさに田園風景と言える長閑さが広がります。自然が多いのです。これは，「自然信仰」のケルト民族のお陰なのかもしれません。…（58 ペ）

＊

…「階級闘争」という概念を提唱したカール・マルクス（1818～1883）は，ロンドンに人生の後半分ほど居住したドイツ人でした。当時，世界で最も経済的に発展した国で，社会格差も激しく存在した不平等の極まりない時代に生きた外国人だからこそ，新しい思想を生み出すことが出来たという指摘もあります。…（71 ペ）

＊

…「20 世紀の歴史はヴィクトリア朝の英国の価値観や地位体系が崩壊していく歴史である」と喝破したのは，オックスフォード大学の社会学者であるアルバート・ハルゼー（1923～2014）です。…（71 ペ）

＊

…つまり，冷戦が終わってマルクス主義が死んだとき，英国において「階級」も死んでしまったのです。英国好きの日本人は，過ぎ去った英国の幻影に憧れて慕い続けているのです。…（74 ペ）

＊

…世界各国において一般的に上流階級（アッパークラス）とは，相続による土地所有権に基盤を持つ富裕層で，それに伴って強力な政治的権力を持ち，社会の人口比で上層の 1～2%の最上層の人々のグループと考えられています。…（83 ペ）

＊

…伊丹十三氏とは女優の夫人と，昔，ホテルオークラで何度かすれ違いました。独特のダンディズムと風圧のある男前で，会釈するほどの顔見知りではありませんでしたが，毎回上から下まで一瞥されて，ファッションチェックをされているようでした。…（101 ペ）

＊

…特に日本に対して辛口のブレジンスキーは 20 世紀末の日本について，「アメリカの実質的な保護国である」と皮肉を交えた指摘をしています。…（121 ペ）

＊

…リヒテンシュタインはタックスヘイブンでも有名で，侯家自体が欧州の君主の中で一番の資産家として知られています。リヒテンシュタインの国家（誤植，正しくは国歌）である『若きライン川上流に』は，ドイツ語の詞に英国国歌と同じメロディーで歌われる慣習となっています。

1980 年のレークプラシッド冬季五輪でハンニ・ウェンツェルが女子回転，大回転で金メダルをとった時，誰もが知る有名な英国国歌と同じメロディーが流れているので，リヒテンシュタインの慣習を知らない英国人はもとより，各国選手と観客も間違いではないかと仰天したというエピソードがあります。…（124 ペ）

＊

伝統を信奉する英国において極めて意外な事実は，世襲貴族と言われる家の三分の一は，20 世紀の授爵者であるということです。つまり，さも伝統と歴史の重みを背負

っているかのような顔をしながら，じつは「成り上がり者である」と言われても否定することが出来ない側面があるということです。

繰り返し述べますが，貴族の力の源泉は，伝統や歴史などではなく財力です。英国貴族の大部分の家より，むしろ日本の地方の「庄屋」の方が由緒正しい家系を長く維持しているほどです。ここに日本人の英国貴族に対する幻想が存在しているのです…（128 ペ）

＊

…『シャーロック・ホームズ』にはカネ目当ての結婚を逃した独身貴族の話もありますが，ノンフィクションの現実の世界ではウィンストン・チャーチル（1874～1965）の母親もアメリカ人大富豪の娘です。チャーチルの母はフランスのナポレオンⅢ世の宮廷で教育を受けていたそうですから，大富豪でも桁違いです。その頃にウィンストンの父であるランドルフ・チャーチル卿と出会ったそうです。…（134 ペ）

＊

ヴィクトリア朝は，まさに江戸時代末期から明治時代の後半とほぼ重なります。社会や文化，そして国民に大きなインパクトを与えたという歴史的視点に立てば，300 年後の未来から見て，英国のヴィクトリア朝と日本の昭和時代とを比較，考察する研究が盛んになっているはずです。…（201 ペ）

＊

…19 世紀末の英国は，20 世紀後半の日本と極めて良く似ています。…（203 ペ）

＊

…資産，教育といったレベルの高さにおいて今日，僅か 35 万人のユダヤ系（英国人）が英国社会でも高い地位を占めていることは言うまでもありません。

ちなみにユダヤ人にはディポラス以降，イランに移ったミズラヒ，東欧系のアシュケナージ，イベリア半島のスファラディという三つに分類され，その全てのユダヤ人が英国には集まっています（推敲が甘い文だ：柳沢）。

私見ですが，ユダヤ人は日本人のことをよく見ており，比較的理解のある人たちです。歴史的にユダヤ人に対して日本人が弾圧をした歴史はなく，弾圧する側の国と汲んだことはありますが，その時でも，外交官の杉原千畝（1900～1986）や樋口季一郎陸軍中将（1888～1970）のような優れた人物，日本が誇るべきサムライたちがユダヤ人を助けたことで知られています。…（214 ペ）

＊

…（「ウィンブルドン現象」の元となっている英国テニス界の状況について説明）毎年六月最終の月曜日から二週間にわたって，ロンドン郊外の高級住宅地ウィンブルドンにあるテニス場で繰り広げられるウィンブルドン選手権において，現在でも活躍する英国人選手は殆どいません。テニスが世界中に広まり人気スポーツとなり，闘志むき出しでハングリーな強豪選手はすべて英国人以外ばかりになってしまった状況と（英国経済界の状況が）似ていることから，地元のイベントに余所者が跋扈（ばっこ）する状態を示す表現として膾炙（かいしゃ）しています。…（231 ペ）

＊

…現在においても英国人に「あなたは何人ですか？」と尋ねれば，イングリッシュ，スコティッシュ，ウェリッシュ，アイリッシュとの回答が多く，慣れるまで少々面喰らいます。「ブリティッシュ」と答える人はなかなかお目にかかれません。…（中略）…この辺りが日本人の感覚ではわかりにくい英国人のアイデンティティです。…（241 ペ）

＊

…もし日本も「大東亜帝国」として政治体制変更に成功していれば，たとえ敗戦によって帝国の共栄圏が崩壊しても，現在のような激しい反発と非難を中国や韓国から受けることはなかったかもしれません。これも歴史の後知恵でしかありませんが，インドを 200 年以上に及んで支配した現在の英国に対して，インド人が侮辱的な反発をしていることはあまり聞きません。

これはオックスフォードに留学して在英日本企業に勤務経験にある日本人経営者から聞いた話ですが，「アメリカ人の差別はあからさまでムッとするが，英国人に差別されてもあまり気分が悪くならない」というのがあります。これは，英国人は差別より「区別」をすることに長けているからだと著者は感じています。…（246 ペ）

＊

…フリーメイソンの源流は大きく分けて二つあります。

石工組合，そしてもう一つは地（「知」の誤りか？〔柳沢〕）に目覚めた啓蒙主義的な文化人のグループで，前者をプラクティカル・メイソン，後者をスペキュラティブ・メイソンと呼びます。

エリザベス 1 世の時代には，ケンブリッジ大学で学び「知識は力なり」と言ったフランシス・ベーコン子爵（1561～1626）をはじめとする優れた科学者たちが，宗教改革を経ながらも未だに中世の迷信に凝り固まる欧州とは違った新天地の英国に集まり，

フリーメイソンの集会所が石工だけでなく，様々な人々が宗教を超えた自由に意見を戦わせることができる思索的な場となりました。…（中略）…

フリーメイソンはオカルト的な意味合いで日本では人々の興味を惹きますが，英国や欧州諸国，アメリカでは親睦団体，ボランティア団体として社会で高く評価されています。

ライオンズクラブやロータリークラブが談合の温床ではなく汚職情報の溜まり場ではないのと同じように，フリーメイソンに世界的な陰謀を企むような組織力や力などはありません。…（中略）…フリーメイソンの教義で今日でも多くの人の共感を得るのは,「より良き人格を目指して人間は一生の旅をする」という考え方ではないでしょうか。（280 ペ）

＊

…ベートーヴェンの有名な第九交響曲は，1813 年に設立されたロンドン・フィルハーモニー協会からの依頼で作曲され，初演されたと指摘すれば,（英国民は）音楽に無関心の国民でなく，極めて関心があった国民であると断言することが出来るでしょう。…（282 ペ）

＊

…じつは，チャーチルとモントゴメリー将軍は反りが合わなかったことでよく知られています。モントゴメリーはチャーチルに「私は酒は飲まない，タバコも吸わない，たっぷりと眠る，それこそが私が 100％完璧でいられる理由だ」と言っているのを聞きつけたチャーチルは負けずに「私は酒を飲み，少しだけ眠り，次々と葉巻を吸う，それが私が 200％完璧でいられる理由だ」と言い返したと伝わっています。…（301 ペ）

＊

…確かにヴィクトリア朝の英国は尊敬に値する大繁栄をしていましたが, 20 世紀に入ってからの英国は社用の帝国でしかありません。それにもかかわらずその栄光がかすんで行けば行くほど，日本人の想いは強くなり，現在まで至っています。そこには常に日本の先を行く姿を英国の背中に求めているからかもしれません。…（中略）…

国家も人間と同じく栄枯盛衰があり，古今東西において不変の法則である（推敲が甘い：柳沢）ことを私たちは知っています。日本人には「滅びの美学」があります。21 世紀前半期に生きる私たちは，年老いて行く英国を蜃気楼のように追い求め，同じ道を愚直に歩み続けています。英国には，常に日本の先例が存在しています。

老いることは決して悲しいことではありません。大器は晩成し，老いの中に人間は完成に近づくように（推敲が甘い：柳沢），私たち日本人は老醜を晒すことなく，美しく誇り高く生きて行くべきではないでしょうか。そこにこそ世界から尊敬される日本という国家，文明の存在価値があると信じています。…（中略）…それはあたかも「英国紳士」の幻影としての蜃気楼を追うが如く，いつまでもその背中に触れることもなく，ひたすら追い求め彷徨い続けることになるのかもしれません。

＊

本書は第三企画出版により発行され，創英社／三省堂書店により 2015 年に発売されている。また，最近の本では詳しく書かねばならない巻末の出典リストが簡単なもので済まされている。どういう事情があるかはわかりかねるが，推敲が甘い部分があることも含めて，本書独特の特徴となっている。下線は柳沢による。

◎津野海太郎著『読書と日本人』（岩波新書 1626・2016 年）

篠ノ井高校図書館の新入荷図書紹介のコーナーで発見。ひと言で言うと，この本は「読書史」の本である。カバー裏のキャッチコピーをそのまま引用する。

＊

「本はひとりで黙って読む。自発的に，たいていはじぶんの部屋で」―私たちが「読書」と名づけてきたこの行為はいつ頃，生まれたのだろうか？　そしてこれからも人は，本を読み続けるのだろうか？　書き手・読み手・編集者として《読書の黄金時代》を駆け抜けてきた著者が，読書の過去・現在・未来を読みとく，渾身の一冊！

＊

本文は常体（～だ・～である調）と敬体（～です・～ます調）が入り交じっていて読みにくい。推敲が甘いままと言われても仕方があるまい。好みで言えば，少なくとも私は嫌いだ。約 20 分で飛ばし読み。重要だと思ったところに付箋を貼って完了。以下に要点を抜き書きする。

＊

…ようやく日本の読書史にも，①音読による享受から黙読による享受へ。②均一的・共同体的な読書から多元的・個人的な読書へ，という引き返し不可能な変化が生じ，個人としての作者と個人としての読者との一対一の関係にもとづく「近代読者」が誕生したのだと前田愛はいいきった。それが 1900 年前後，明治 20 年から 30 年にかけて。…（103 ペ）

＊

…明治末の十年ほどのあいだに日本人の読書の歴史に大きな変化が生じた。ちょうどそれが 20 世紀のはじまりにかさなる。そして，そのようにして幕を上げた 20 世紀が，ほどなく《読書の黄金時代》ともいうべき，きわめて特殊な時代へと変貌してゆく。…（中略）…ある社会の遠い過去にあった最盛期を理想化していったことば。それが「黄金時代」ですね。したがって《読書の黄金時代》というと，歴史上，これ以前にはなかったし，そしてこちらがより重要なのですが，この先もおそらくないであろう読書の輝かしい最盛期という意味になる。…（中略）…

…読書の平等化を現実のものにした要因の第一は，明治政府が国策として強力に推し進めた識字教育でしょう。そして第二に，読み書き能力の向上によって加速度的に拡大した読者層が必要とするだけの量の本をつくり（本の大量生産），それらの本をかれらのもとに迅速にとどけるしくみ（全国的な流通網）をととのえる—すなわち今日まで続く資本主義的な産業としての出版のしくみが，この時期（20 世紀初頭）に，おどろくべきいきおいで爛熟の域にまで近づいていった…（118 ペ）

＊

…《読書の黄金時代》といっても，日本だけがそうだったわけではない。それは同時にヨーロッパやアメリカ合衆国にとっての黄金時代でもあった。いや，むしろ欧米中心の世界で本格的に開始されつつあった《読書の黄金時代》としての 20 世紀に，ややおくれ気味に日本も参加してゆくことになった。正確にはやはりそういうことなのだろうと思います。…（123 ペ）

＊

…（第二次大戦前の日本の読書についての記述あり）…こうして《じぶんだけの部屋で黙って本を読む》という読書習慣が定着し，あっというまにそれが電車の中で《おおぜいの他人といっしょに読む》ところにまで行きついた。そしていまや私たちは電車やバスでひとり黙々と小型の携帯端末に見入っている。こうした新しいクセの遠い源泉も，じつはこのあたりにあったのです。

＊

本を読む時代が五千年以上もつづいたのち，21 世紀の冒頭にそれとはまったく異質な本が，とつぜん大量販売用の商品としてのすがたをあらわした。手写や印刷ではなく，テキストを明滅する光の点として携帯可能な小型のコンピュータの画面に表示する本。表示するだけですよ。定着はしないし，できない。それが電子本なのです。

そうである以上，こんな頼りない本に《紙の本》の読書に親しんだ人びとがたやすく心身をゆだねてしまえるわけがない。とはいうものの，いったん出現してしまったからには，まったくないものと見なすこともできない。はてさて，このやっかいな事態を私たちはいったいどう理解したらいいのか。

この問いへのとりあえず確実といいうる答えはひとつしかありません。

———本というメディアが歴史上はじめて，私たちの目のまえで《物質の本＝その最高形態としての紙の本》と《物質ではない本＝電子の本》というふたつの方向に分岐しはじめた。いま私たちはその歴史的な分岐の場に立ち合っている。これがその答えです（下線は柳沢）。…（240 ペ）

＊

…乱暴なようだが，やはり《読書の黄金時代》としての 20 世紀はとうとう終わりを迎えたのです。…（中略）…たとえ《読書の黄金時代》が終わろうとも，《紙の本》による読書は終わらないだろう。…（中略）…いずれにせよ，これまで私たちが読書と呼んできた行為は，これからもしばらくは，さしたる変化なくつづいてゆくでしょう。…（262 ペ）

＊

文体や仮名遣いが嫌いであったにしても「読書メモ」なるものを綴る者として知っておくべきことはそれなりに含まれていたようだ。抜き書きでザッと 1 時間ほどかかったが，この時間は無駄ではなかったと信じよう。

◇まとめ

昨年末・今年初めに何人もの方から「《読書メモ》はいい（面白い）から続けてみたら？」という趣旨の言葉で励ましていただきました。おかげで今回もこのメモを書くことができました。ありがとうございます。

この年末年始休業は昨年と違い，娘にこたつを占領されたので，楽しみにしていた「ごろ寝読書」はできなかった。仕方がないのでソファに深く座ってクッションに寄りかかって本を読んだ。

来月に要約や抜粋などを報告したい本がすでに数冊ある。10 冊以上あるかもしれない。先のことは分からないが，順調にいけば来月はさらに充実したメモが作れそうです。…と書いて自分を励ましてみたりする今日この頃です。2017 年 1 月 27 日（金）14:00 脱稿。